

道博協ニュース 第132号 (2023年3月31日発行)

令和4年度「ミュージアム・マネージメント研修会を開催しました」

令和4年度ミュージアム・マネージメント研修会は『地域に根差したミュージアムが「街」を再生、創造する』をテーマに、令和4年10月20日(木)、21日(金)に、29名の参加を得て開催しました。

小樽芸術村学芸部長磯崎氏による基調講演では、意思決定から実行までのスピードや、所蔵作品は企業の資産であって展示・収蔵の他に売却の選択肢がある点など、公立館での経験とは異なる運営の姿とともに、歴史的建造物・作品の活用と観光促進の中で教育普及的要素が加えられた取り組みを紹介いただきました。また、現在進行中の文化観光推進事業「小樽芸術村を中核とした小樽運河地区の文化観光推進拠点計画」について、観光推進の観点から人流を考慮した広域連携を目指すこととなっていることが紹介され、新型コロナ禍や、根本的なマンパワー不足等の困難に直面しつつも、積極的に観光拠点としての在り方やサービスに取り組む姿が示されました。

続いてのシンポジウムでは、先ず小樽市総合博物館の石川館長より、地域博物館と『「まちづくり」何ができるのか？何をすべきか？』と題し、観光都市小樽における「博物館の役割」について、小樽運河と木骨石造倉庫等の具体的な事例を基に示され、「博物館の強みは“博物館”であること」、資料の収集保存そして調査研究を進め、その「成果を市民に還元することの重

要性」を確認する機会となりました。続いて登壇されたN合同会社の福島代表社員からは、「ミュージアムはレジリエンスの高い存在であり、まちづくりの核となりえる。ミュージアムと連動し文化・芸術を生活との両輪にまで高め循環させるためには中間支援組織が鍵になる」との考えが示されました。

2日目の小樽市内視察研修は、午前中小樽芸術村の4館を自由見学、祝津に移って昼食の後、番屋グループと水族館グループに分かれて視察を行い、小樽の歴史と文化、そして展示の工夫や願いにまで触れる視察研修となりました。



[道央地区博物館等連絡協議会
事務局長 細川 健裕]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

札幌市博物館活動センター、街へ出る

コロナ禍の中、札幌市博物館活動センターは2021年11月に開設20年を迎えました。20年を振り返ると、2002年にサッポロカイギョウ、2008年にクジラ化石がともに札幌市南区の豊平川上流部で発見され、当センターのメインの展示物、調査研究成果となってきました。特に小金湯産

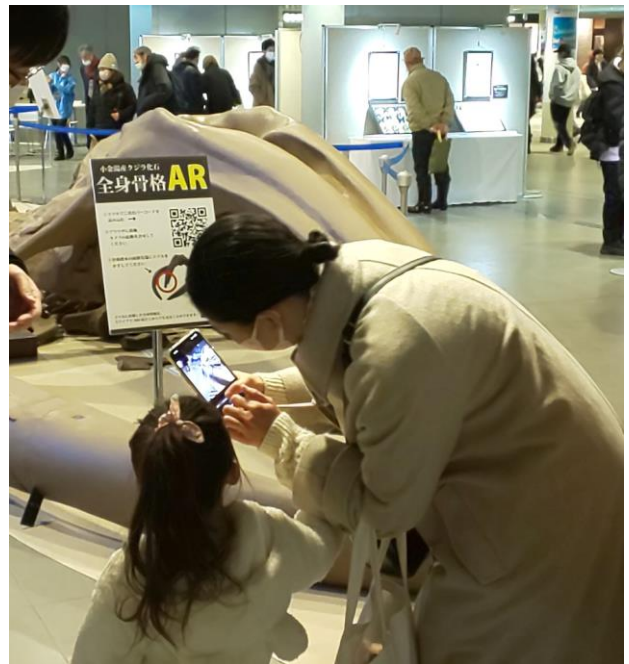
クジラ化石はほぼ全身が発掘されており、事前の予備調査からヒゲクジラ類の大型化の進化を解き明かす貴重な化石と期待されています。発見から約10年かかったクリーニング作業が終わり、2019年～2020年度に足寄動物化石博物館の協力を得て3Dデータ化を行い、そのデータを活用して2021年～2022年に全身復元骨格標本を製作しました。

そして、遂に2023年2月、札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、小金湯産クジラ化石

全身復元骨格標本をみなさんにお披露目することができました。体長14mと聞いていたものの、クリーニングに関わった市民の方々も、私達職員も、今回の展示を見て初めてその大きさに実感が湧きました。

今回のお披露目展示は、3年ぶりの雪まつりと同時期だったこともあり、多くの市民や観光客が来場し、クジラ化石は床に並べての展示ではありませんでしたが、通行人や観光客などが思わず足を止めてしまう「力のある資料」であることが証明されました。また、3Dデータを製作したことでAR技術を用いて見せることが可能になり、来場者の様子から自分の手の中で画像を動かすことで、より親近感の湧く展示物になると感じました。

今後もこうした「主力となる」資料のほか、当センターに収蔵されている植物や昆虫など約10万点の標本を活用して工夫を凝らしながら、札幌の自然史とその魅力を伝えるさまざまな活動を続けていきたいと考えています。



AR展示で立体的な骨格が現れる

[札幌市博物館活動センター
学芸員 山崎 真実]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

垣ノ島遺跡のデジタルコンテンツ を紹介します

函館市南茅部地域にある大船遺跡と垣ノ島遺跡を含む17の遺跡で構成された「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産登録されてから約1年半が経ちました。現在、公開されている垣ノ島遺跡は、大船遺跡のように復元された竪穴建物や竪穴建物跡ではなく、国内最大級の盛土遺構が残されていますが、当時の暮らしを想像することのできる視覚的な情報が少なく、遺跡の価値や魅力をどのように伝えるかが当初の課題となっていました。その課題を解決すべく函館市は令和4年度の事業としてARやVRという技術を駆使したデジタルコンテンツを制作し、昨年の夏ごろ活用が始まりました。ARとは“拡張現実”のことで、スマートフォンやタブレット端末を通してある空間をみると、実際には存在しないモノが端末の画面に映る技術です。垣ノ島遺跡内には竪穴建物跡が窪みとなって残されていますが、それを見ただけでは正直なところ「ここ何で、地面が丸く窪んでんの？」となってしまいますよね。そんな



端末画面に映し出される竪穴建物

ときに近くのARポイントでスマートフォンをかざしてみると画面に竪穴建物が出現するのです。

しかも、端末を覗きながら近づいていくと、竪穴建物の入口から中に入るといった不思議な体験も出来ます。その他に遺跡中央の芝生広場や、盛土遺構のなかにもARポイントがあり、当時の集落の様子を目で見ることができるようになります。

もうひとつはVR(仮想現実)で、こちらも端末を通して体験できるものです。遺跡内にあるVRポイントで端末を操作すると、画面に映る周囲の映像がデジタル加工され、盛土遺構から見える海や林、空が朝・昼・夜の時間帯の映像となって映し出されたり、竪穴建物が自分の周りに数軒現れたりします。縄文人の目線で周りを見ているような

気分を体験できます。

AR や VR だけでなく、遺跡全体を見渡せる展望デッキには遺跡概要を説明するデジタルサイネージが設置され、遺跡内各所では音声ガイドを聞くことの出来るポイントが設定されており、フリーWi-Fi も利用できるようになりました。オープン当初よりとても見学しやすい施設になったと

思います。是非とも体験してみてください。

追記：垣ノ島遺跡 VR・AR を利用するには「StreetMuseum」というフリーアプリのインストールが必須です。

〔(一財)道南歴史文化振興財団 平野 千枝〕

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

日高・胆振の自然環境を学ぶ～

令和4年度 研修会行われる

令和4年11月11日、日高町を会場に日胆地区博物館等連絡協議会の研修会が行われました。この研修会は例年秋に行っていますが、ここ2年は新型コロナウイルス感染症によって中止が続いていたため、約3年ぶりの開催となりました。

今回は、日高・胆振の自然環境をテーマに研修を重ねました。午前中は、「穂別の化石とカムイサウルス」と題し、むかわ町穂別博物館・櫻井館長による基調講演を行いました。平成15年、ある化石が大発見されます。のちに「カムイサウルス・ジャポニクス」と名付けられる恐竜化石です。別名「むかわ竜」といい、町の代名詞として全国に知られるようになりました。むかわ町では、この恐竜化石を通じて様々な町おこしや学習機会の提供を行っています。研修会の参加者は、自分たちの町でどのように活かせるかヒントを得るべく、真剣に聞き入っていました。



午後からは、「沙流川流域の石の観察」を行いました。これも久々のフィールドワークです。日高管内を流れる沙流川は、日高山脈を構成する様々な石が集まる場所です。そのため、流域の石を観察すると日高山脈の成り立ちがわかります。地質学が専門の日高山脈博物館・東学芸員から、石の観察の方法についてじっくり教わりました。火成岩、変成岩、堆積岩それぞれの石を観察する手立てがわかりました。このことから、どんな環境でつくられた石なのかが推察できます。

今回は、貴重なお話しや野外活動など、バラエティーに富んだ研修内容とすることができました。これからも様々な博物館活動を通して、日胆の歴史や自然、文化を多くの人たちと共有できるよう研鑽を深めていきたいと感じています。



〔新冠町郷土資料館 新川 剛生〕

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

現代アート展「TOKACHIDAKE」

(2022年度 富良野市博物館・企画展)

富良野市博物館では現代アート展「TOKACHIDAKE」を2022年10月1日から30日にかけて開催しました。

今回、展示協力いただいた美術作家の千葉麻十佳さんは、十勝岳の噴火によって起こされた大災

害「大正泥流」について美術的な視点からリサーチして制作を行っており、本展はその成果作品を展示する事で、美術という切り口から郷土の歴史を紹介しました。

メインとしたのは照明を落とし暗くした展示室の北面に投影した、十勝岳山麓を撮影した映像作品です。大正泥流が流れたのと同じ5月下旬に高標高部から麓に向かってドローンで移動しながら撮影したもので、残雪や植物、噴石など山肌が表情を変えていく様を「地上に出たマグマが麓に流れていく感覚」として表現しました。途中、噴石に自然光を集めて溶かすシーンも挿入し、スクリーン前にこの溶かされた石を展示しました。

展示室の南面には、青色の濃淡で表現される「サイアノタイプ」(太陽光や紫外線に当て、光の明暗で表現する撮影法)で撮影した十勝岳の写真と並べ、展示室外には十勝岳の噴火被害を記した郷土史資料や写真集も手に取れるように配置しました。

今回、新たに取り組んだ事は、郷土史の展示に現代アートという様式を取り込んだ点です。そのきっかけは千葉氏が大正泥流をテーマに制作活動を行うための人的被害に関する聞き取り調査で当館を訪れたことでした。美術要素を前面に出

すため、具体的な説明を最小限に展示を形作るとは筆者にとって新鮮で、日頃当館を訪れる方々にも新たな趣向の展示をお見せする事ができました。

会期中には大正泥流に罹災された方の係累で、十勝岳に関する普及啓発活動をしている上富良野町民の方が来館し、連携に興味を示してくれたので、展示活動を上富良野町へ展開する事も模索しています。



映像展示の一部(噴石が溶解する様子)

[富良野市博物館 学芸員 泉 団]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

紋別市立博物館

開館20周年記念事業の開催

紋別市立博物館では開館20周年の記念事業として、オホーツク管内博物館連絡協議会に後援いただき、特別展を2回開催しました。

1つ目の特別展「懐かしの名寄本線 開通100周年記念鉄道展」は、令和4年7月16日～8月28日に開催しました。国鉄(のちの JR)名寄本線は平成元年(1989年)に廃止となっていますが、全線開通100年の節目となる本年、改めて名寄本線の歴史を紹介する機会としました。会場にはNゲージ(150分の1)を使い列車を走らせることのできるジオラマや、「急行紋別」「9600型蒸気機関車」などの15分の1の車両模型、沿線40駅のジオラマのほか、鉄道や駅で使用されていた道具や看板など200点以上の資料を展示しました。その他、博物館の駐車場にミニ鉄道を設置し、子どもたちを乗せてミニ列車を走らせたり、手漕ぎトロッコの乗車体験も行いました。関連イベントでは、元



「鉄道展」の様子

国鉄職員で鉄道模型作家の新木収氏によるトークイベント「元国鉄マンの鉄道おもしろ話」を実施しました。

2つ目の特別展「竹澤イチローの世界展」は、10月29日～11月27日に開催しました。竹澤イチロー氏は紋別生まれで、現在は東京を拠点として国際的に活躍しているアーティストです。今回、32年ぶりとなる故郷での展覧会では、初期の作品から最新作まで37点を展示しました。竹澤氏の初期の作品は自己の内面を描いた重厚な作風でしたが、「明るい絵で世の中を明るくしたい」という思いから、近年になるとポップなかわいい画風に変化していきまし

た。関連イベントの竹澤氏による講演会「戦後の日本現代アートの世界」では、地元出身アーティストの凱旋とあって、会場は満員の盛況となりました。



「竹澤イチローの世界展」の様子

当館が誕生して20年。これまで多くの皆様に支えていただき、心より感謝申し上げます。今後も皆様に愛される博物館を目標として、活動を続けていきたいと思っております。

[紋別市立博物館 業務係長 小林 健一]

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

羅臼町郷土資料館北方四島展示室、 知床いぶき樽展示室の開室

羅臼町郷土資料館では、2022(令和4)年10月15日より、新たな常設展示室として、北方四島展示室、知床いぶき樽展示室を開室しました。

北方四島展示室は、北方四島の歴史・自然について、当館が保管する村田コレクション、福井コレクションを中心に展示しています。

村田コレクションは、元羅臼村長で、昭和3年から昭和16年まで、国後島で教員を勤めていた村田吾一が収集した考古資料、植物標本、そして自身が撮影された写真からなります。

福井コレクションは、昭和初期に国後島や択捉島で硫黄鉱山に勤めていた福井友三郎が収集した考古資料、化石、そして硫黄鉱山関係の写真からなります。

現在、北方四島はロシアが実効支配しており、自由に行くことはできず、これらは学術的に貴重な資料であると共に、島の姿を伝える実物の資料となっています。

知床いぶき樽展示室は、羅臼町指定の無形文化財「知床いぶき樽」について、展示しています。

知床いぶき樽は、昭和46年に青年たちが羅臼の風土に根ざして創作した芸能で、今日では羅臼

の郷土芸能として位置づけられるものになっています。現在、これは知床いぶき樽保存会により継承されています。展示室では、この保存会の活動、創作の経緯、演奏楽器、そして映像資料等を展示しています。

10月15日の展示室オープン初日には、展示室解説の講座を行っており、公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟羅臼支部、知床いぶき樽保存会の会員のみならず多くの町民が来館しました。

今後は、地域住民が継続的に来館するような、仕組みづくりを図っていきたいと考えています。



北方四島展示室展示品

[羅臼町郷土資料館
文化財保護係長 天方 博章]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

動物園・水族館が目指す道

コロナの影響はまだまだ続きますが、社会活動

は本格的に再始動する年になりそうですね。動物園水族館も一気にエンジン全開と行きたいところです。

ただ、コロナ禍での3年間で世界的に動物園・水族館を取り巻く状況は大きく変わりつつあり

ます。ひとつは動物を飼育することで生じる飼育動物の福祉の向上です。それぞれの国や地域で文化や経済力などにより違いは生じますが、WAZA（世界動物園水族館協会）が牽引する形である一定の基準や目標を定め具体化していくことになります。WAZA 加盟の条件となり今年から認定のための審査が始まります。JAZA（日本動物園水族館協会）でも WAZA との協議を重ね日本としてのガイドラインを策定してきました。審査は数年が

かりになります。動物園水族館が社会的に認められ続けるためにとっても重要なことです。

もうひとつは、飼育動物をとおして、種の保存や生物多様性や環境の保全に繋げること。目標は来園者一人一人の行動変容に繋げること、かなと。

地球が健全であるためにできることを具体化していきます！

[旭川市旭山動物園 園長 坂東 元]

学芸職員部会 NEWS

学芸職員部会 GIS 研修会に参加して

令和4年10月6日、7日に釧路市立博物館で学芸職員部会のGIS研修がおこなわれました。事例報告では外山雅大氏（根室市歴史と自然の資料館）と野本和弘氏（釧路市立博物館）から、QGISを活用した天然記念物の指定候補地の選定や、希少種であるキタサンショウウオの生息環境情報をもとに生息地予測を地図化する事例が報告されました。

基礎講習では三橋弘宗氏（兵庫県立人と自然の博物館）からGISの基礎的な知識や使用方法について講習が行われました。

実習では、実際の研究や展示で活用できる地図を作成しました。私は、展示で使用できる根室市内の遺跡一覧図を作成しました。

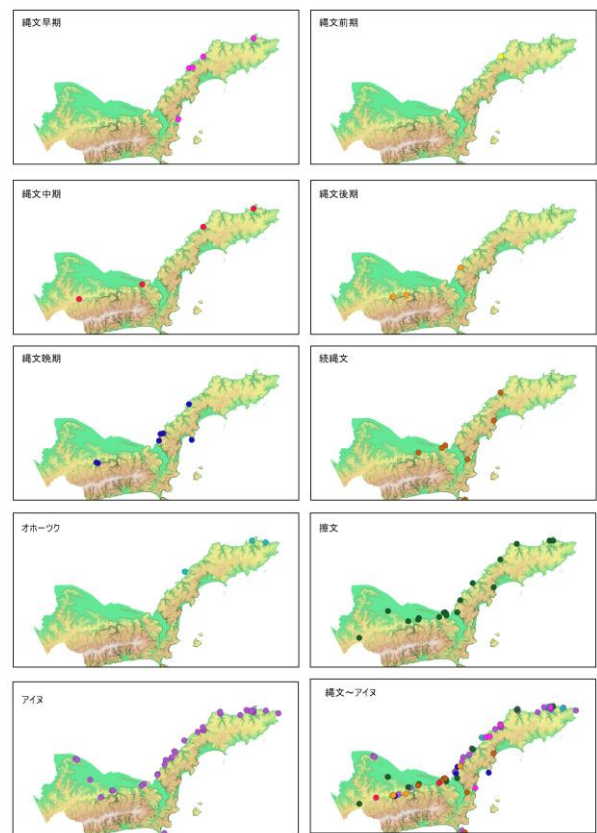
QGIS初心者だったため、最初は地図内に埋蔵文化財包蔵地のポイントを落とした簡素なものしか作れませんでした。講師の方々にご教示いただき以下のような手順で地図を作成することができました。

- ・包蔵地のポイントを合わせた北海道の地図から根室市のみを範囲指定して切り抜く。
- ・標高と傾斜を色や濃淡で表す。
- ・包蔵地のポイントを時代で色分けする。
- ・複数の時代にまたがる遺跡を表示するために、時代ごとに地図を作成する。

以上で各時代の遺跡の分布をワンクリックで表示できる地図を作成しました。

参加者の成果発表では、ヒグマの目撃マップや石狩川流域の文化施設の洪水リスク、チャシと遺跡の分布図、人口と博物館施設の分布など、それぞれの学芸員が地域の特性を知り、それを伝える視点で作成した地図が紹介されました。

QGISの多様な活用法や実際の使用方法を知ることができた研修会となり、その後の業務でも図の作成にQGISを使用するきっかけとなりました。



研修にて作成した図

[根室市歴史と自然の資料館 大久保 太智]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

令和4年度第57回北海道青少年科学館連絡協議会職員研修会の報告

令和4年11月16日(水)～17日(木)の2日間、道科協加盟館のスタッフを対象とした令和4年度第57回北海道青少年科学館連絡協議会研修会を開催しました。

今年度の職員研修は、開催館である厚岸町海事記念館のあります厚岸町にて開催いたしました。会場を持ち回りながら毎年開催されていた本研修ですが、長引く新型コロナウイルス感染症の流行により、一昨年は中止、昨年もオンライン開催となったため、一堂に会しての開催は実に3年ぶりとなりました。

各科学館としても、長らく多くの子ども達を集めて行うイベントが実施出来ずにいた事と思いますが、最近の行動制限の緩和等により、少しずつではありますが今後は各種イベントが復活していくであろうと思います。そこで今回の研修では、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸様のご協力をいただき、子ども向けイベントを盛り上げるため、「子どもを引きつけるアイスブレイク」としてコロナ禍でも出来る楽しいレクについて学びました。風船を使ったレクや新聞紙を使った衣装作成など、8館14名

の参加者は少し汗を流しながらの研修となりました。

そのあと各館における近況報告として1館につき3分程度の報告や、厚岸ウイスキーについての解説、2日目のプラネタリウムや厚岸歴史施設見学等の研修カリキュラムにおいて、参加者同士が活発にコミュニケーションを図りながらスムーズに研修が行えたのは、研修日程の最初にアイスブレイクが行われていたことも大きく関係していたのではないかと感じており、改めて研修におけるアイスブレイクが重要であることを実感したところでもありました。

新型コロナの影響もあってオンラインでの研修や会議も当たり前になりつつあります。しかし今回の研修において、実際に顔を合わせて名刺を交換し、人と人のつながりを作る機会にもなる研修がやはり大切であると再認識させられる機会となりました。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の流行は収束していませんが、それに負けずに研修会を開催できて良かったと思います。参加館の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

今後も研修会や情報交換会を通じて、各館での事業活動を盛り上げ、来館者の皆さんに科学について気軽に楽しく学べる機会を提供できるよう努めていきたいと考えております。

[厚岸町海事記念館 館長 千葉 隆行]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

網走市立美術館開館50周年記念展



左：エヴァンゲリオンフィギュアワールド展ジオラマ
右：長谷川誠 ふるさと切手『浅草・雷門』原画

網走市立美術館は1972(昭47)年に北海道内2番目の美術館としてオープンいたしました。

2022(令4)年に50周年を迎えましたので記念展といたしまして、『海洋堂エヴァンゲリオンフィギュアワールド』、『西洋近代絵画展』、-オホーツクへ還る-『長谷川誠展』を開催いたしました。

1つ目の展覧会『海洋堂エヴァンゲリオンフィギュアワールド』は親子で楽しめる展覧会として、フィギュアやカプセルトイのメーカーである『海洋堂』とジオラマを常設しているミュージアム『龍遊館』の協力で実現いたしました。フィギュア制作工程はモデリング彫刻と同じであり幅広い年齢層に浸透しており、従来の“サブカルチャー”ではなく堂々の“カルチャー”としてご紹介いたしました。

2つ目は、『西洋近代絵画展』東京日動画廊と笠間日動美術館の協力でモネ、シャガール、ピカソなど西洋美術史に出てくる作家作品を展示し、広く美術への興味関心を高めるための企画でした。教科書やネットなどで情報としての作

品画像などをご覧いただいているかもしれませんが、やはり作品を直接鑑賞していただきたいと思います。市内小中学校の鑑賞授業などに多くご来館いただきました。

3つ目は、-オホーツクへ還る-『長谷川誠展』です。これは郷土出身の日本画家の遺作展となります。50周年の記念年ですが、やはり郷土の美術館として優れた作家作品の収集・調査・保存をし公開することは使命だと考えます。今回新収蔵した作品の多くが150号で、木製パネルより外されて巻かれており、本紙の傷みが多くありました。作品の劣化を抑え、どのように公開するかが課題でしたが、2020年に急逝した作

品や作家の想いを後世にどう残してゆくかが問題でした。この展覧会が、開館50周年の節目に郷土作家展として開催できたことは、美術館がただのイベント会場ではなく博物館としての役割をはたしていると感じております。今後とも、普段鑑賞できない作品も、郷土出身の文化も展示し、次の世代へ渡す役割を担いたいと考えます。

[網走市立美術館 館長・学芸員
古道谷 朝生]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2023年4月～9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/23	野外講座「石狩ビーチコーマーズ 春の海辺の漂着物」
4月末～6月	テーマ展「漆器展(仮)」
7月～8月	テーマ展「フライドチキン骨格に〇〇が見える(仮)」
7/29	体験講座「フライドチキン骨格標本をつくる」
9月～11月	テーマ展「漂着考古学(仮)」
9月	トークイベント「ウミベオロジー 石狩海辺学2023」

北海道立近代美術館 (011-644-6882)

期間	タイトル
4/22～6/11	近美コレクション 「美しいものとの時間 友田コレクションの精華 魅惑の版画と詩」
4/22～6/11	近美コレクション「昭和のガラス工芸」
4/22～6/11	近美コレクション「新収蔵品展」
4/22～6/11	特別展「トリック×イリュージョン！」
4/22	トリック展関連 「アーティスト・トーク 講師：須田悦弘氏（美術家・本展出品作家）」
5/13	トリック展関連「見どころトーク 案内：当館学芸員」
5/20	トリック展関連「手作りスリットアニメーション（トリック工作） 講師：フジ森氏（アートユニット・本展出品作家）」
5/28	トリック展関連「手作りスリットアニメーション（トリック工作） 講師：フジ森氏（アートユニット・本展出品作家）」
6/3	トリック展関連「見どころトーク 案内：当館学芸員」
9/16～11/12	特別展 「札幌テレビ放送創立 65周年記念 足立美術館所蔵 近代日本画と北大路魯山人展」
9/16～11/12	揺さぶる絵 変貌する日本画のイメージ (同時開催) ・アール・ヌーヴォー 自然を映し出すガラス ・アートギャラリー北海道 小川原脩記念美術館コレクション展

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/7～7/30	企画展「開館十周年記念 大屏風展」
8/4～11/30	企画展「仮称・比田井天来展」
4月～9月各月1回	ギャラリートーク 講師・演題：未定

サケのふるさと千歳水族館 (0123-42-3001)

期間	タイトル
3/1～5/31	サケ稚魚の放流体験

札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)

期間	タイトル
未定 (5月)	GW イベント
6/3	大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング
6/25	オリンピックデーイベント
未定 (8月)	夏休みワークショップ

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

期間	タイトル
4/15～6/11	企画展「札幌美術展 艾沢祥子 gathering—集積する時間」
4/29～11/3	所蔵作品常設展「札幌芸術の森野外美術館」
7/8～9/3	企画展「STV 創立 65 周年記念 チームラボ 学ぶ！未来の遊園地と、花と共に生きる動物たち」
9/16～11/23	企画展「深堀隆介展 水面（みなも）のゆらぎの中へ」

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
～5/28	第20回企画テーマ展「もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」
4/15	企画テーマ展関連行事 自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
4/16	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう」
4/22, 5/13, 6/3, 7/1	アイヌ語講座「アイヌ語ブロックでアイヌ語を学ぼう（第1回）」
4/29	企画テーマ展関連行事 ミュージアムカレッジ「馬が湿地ではいた靴」
5/4	特別イベント「上映会 ショートムービー「建物に描かれた想い」」
5/5	特別イベント「石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！」
5/6, 5/27, 6/17, 7/8, 7/29, 8/12, 9/9, 9/30	ちゃれんが古文書クラブ（全12回）第1～8回
5/14	企画テーマ展関連行事 ミュージアムカレッジ「札幌にもいた！？カワウソのお話」
5/21	企画テーマ展関連行事 講演会「湿原の自然誌と変遷」
5/28	ミュージアムカレッジ「じっくり聴こう！アイヌの音楽（2）「神謡」の旋律」
6/4	ちゃれんがワークショップ 「北海道の林業と建築の道具—スケッチをしてみよう！—」
6/11	ミュージアムカレッジ「北海道博物館の「建物」の魅力」
6/24～25	特別イベント「北海道ジオパークまつり 2023」
7/9	ミュージアムカレッジ「じっくり聴こう！アイヌの音楽（3）合唱のいろいろ」
7/15	ミュージアムカレッジ「「開拓」とアイヌ民族の土地」
7/22～10/1	第10回特別展「ユネスコ世界遺産登録記念 北の縄文世界と国宝」
7/23	子どもワークショップ「小さな野球盤づくり」

7/30	子どもワークショップ「アイヌ音楽 うたって・おどって・ならして」
8/6	子どもワークショップ「翼竜カイトを飛ばそう」
8/19	子どもワークショップ「バッタ・コオロギ・キリギリスをさがそう」
8/19	特別展関連行事 特別イベント「世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」フォーラム」
9/3	特別展関連行事 ミュージアムカレッジ「北の縄文世界と国宝」展ができるまで」
9/16	特別展関連行事 特別イベント「北の縄文世界」を知る」
9/30	自然観察会「木の実・草の実のヒミツをさぐる」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/1～3/31	常設展「北海道の文学」
4/11～6/25	常設展「アーカイブ 川上澄生の世界」
4/15～6/11	特別展「ファミリー文学館「ネコ！ねこ！猫！！Ⅱ」」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日手作りコーナー「こいのぼりをつくろう！」」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日スペシャル「人形劇」」
5/11, 6/8, 7/13 8/10, 9/14, 10/12	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
6月, 9月, 10月	ぶらり文学散歩
6/4, 7/2, 9/3, 10/1	わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせほか」
6/24～8/20	特別展「生誕120年・没後60年 小津安二郎」
6/25	映像作品鑑賞「東京物語」
7/1～9/10 (募集期間)	第18回北海道小・中・高生短歌コンテスト
7/11～10/1	常設展「アーカイブ 川柳・斎藤大雄の宇宙」
7/30	わくわく～こどもランド「手作り教室・サマーブックをつくろう！」
8月上旬	夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」
8/2, 3	わくわく～こどもランド「手作り教室・紙芝居をつくろう！」
8/6	わくわく～こどもランド「夏休みスペシャル」
8/27	映像作品鑑賞「未定」
9/9～11/7	特別展「『スーホの白い馬』の画家 赤羽末吉」
9/23	イベント「文学館まつり」
10/8, 9	講演会等「中島公園ぶんがく縁日」
10/17～12/28	常設展「アーカイブ 文学館コレクション 新収蔵品から」
10/29	講演会等「文字・活字文化の日関連事業」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
5/20～5/21	イベント「アースデイ in 円山動物園」
7/28～8/6	イベント「夏の特別企画展」
8/26～8/27	イベント「コウモリフェスティバル 2023in 札幌」

空知

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

期間	タイトル
2/4～5/7	企画展「北海道のアンモナイト ～コニアシアン編～」
5/3～5/7	体験イベント「化石博士になろう！2023GW（仮称）」
7/8～10/9	特別展「復元—よみがえる、北海道の古生物たち」
8/11～8/15	体験イベント「化石博士になろう！2023夏（仮称）」

栗山町開拓記念館(0123-72-6035)

期間	タイトル
未定	未定

月形樺戸博物館 (0126-53-3443)

期間	タイトル
3/20～	常設展示「彫刻家本田明二ギャラリー」 *新設

赤平市炭鉱遺産ガイド施設(0125-74-6505)

期間	タイトル
未定	未定

美唄市郷土史料館 (0126-62-1110)

期間	タイトル
5/21, 6/18, 7/16, 8/20, 9/17	映画上映「なつかしの映画上映会」
5/27	コンサート「ハンマーダルシマーコンサート」
7/1	コンサート「二胡とピアノと歌コンサート」
7/7～9/3	アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」
7月中旬	企画展「アイヌ文化巡回展『アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～』」 記念講演会
7/29	体験講座「火起こし体験」
7/30, 8/5	映画上映「夏休み子ども映画会」
8/6	体験講座「切り絵で作るアイヌ文様」
8/26	コンサート「ギターコンサート」
9/9	体験講座「石炭を燃やそう！」

後志

小樽スキー資料館 (0134-33-7381)

期間	タイトル
なし	なし

おたる水族館 (0134-33-1400)

期間	タイトル
3/18～11/26	特別展「古代魚～魚類 4 億 6000 万年」

小川原脩記念美術館 (0136-21-4141)

期間	タイトル
3/4～7/2	常設展「小川原脩展『アジアの大地』」
4/23～7/2	企画展「生きる～小川原脩と穂井田日出麿 二人展」
7/15～9/24	企画展「しりべしミュージアムロード共同展『小川原脩と後志の作家たち』」
7/15～9/24	企画展「岸本春代絵画展」
7/15	コンサート「道銀しりべしミュージアムロードコンサート」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

期間	タイトル
3/11～7/9	展覧会「春から夏の展覧会『大・箱絵展』」
3/11～7/9	おやこで楽しむ展覧会「よんで・つくって てんじしつとしょかん」
4/29～7/9	教育普及「展示作品人気アンケート」
5/3	教育普及「美術館探検会（親子向け）」
6/24	イベント「西村計雄生誕記念イベント」
7/15～9/24	展覧会「夏から秋の展覧会『絵画で味わう 納涼と観月の宴』」
7/17	無料開放「北海道みんなの日 無料開放」
9/25～2024/3/3	展覧会「開館 24 周年記念展『西村計雄 景色の彩』」

余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
なし	なし

渡島**市立函館博物館 (0138-23-5480)**

期間	タイトル
通年	収蔵資料展「はこだての歩み」
通年	収蔵資料展「函館戦争」
通年	おもてなし講座「展示解説」（要事前予約）
通年	おもてなし講座「バックヤードツアー」（要事前予約）
～6/18	収蔵資料展「刀と鐔（つば）」
～6/18	ロビー展「先史時代の函館」
4/1～10/31	おもてなし講座「見せます！お宝公開！」（要事前予約）
4/1～10/31	おもてなし講座「明治の博物館見学」（要事前予約）
6/27～10/15	企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」

北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

期間	タイトル
4/29～6/25	巡回展「新・山本二三展」
4/29～9/24	常設展「生誕100年 鎌田俳捺子」
4/29～9/24	常設展「書との出会い 大塚鶴洞、川谷尚亭、比田井天来」

森町公民館 郷土資料室 (01374-2-3479)

期間	タイトル
なし	なし

胆振

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/29～6/25	企画展「美術所蔵名品選：風景画×静物画編」
5/5	ゴーゴーミュージアム（無料観覧日）
7/15～9/3	特別展「縄文⇄現代～共鳴する美のかたち」
7月下旬	美術博物館祭2023
9/23～11/19	特別展「出光美術館名品選」

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
4/23 (予定)	体験学習会「とんてん館寺子屋教室『しいたけ植菌』体験学習会」
5/5 (予定)	体験学習会「民俗資料館フェスティバル」

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
5月～9月 (月に3回程度)	自然観察会「ブラアポイ」

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
4/29～5/7	講座「大型連休企画」
5月	講座「春の自然観察会（全2回）」
5月	講座「自然創作体験」
6月	講座「夏の自然観察会」

8月	講座「考古学体験講座」
9月	講座「秋の自然観察会」
9月	講座「地質めぐり」
9月	講座「歴史探訪」
通年	講座「古文書教室」
未定	企画展「外来生物展」
未定	企画展「タイムカプセル～博物館収蔵の古文書」

土の博物館 土の館 (0167-45-3055)

期間	タイトル
未定	未定

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
4/15～6/25	特別展「笠間日動美術館コレクション 魅惑の西洋近代絵画 モネ、ルノワールからピカソ、マティスまで」
4/15～6/25	常設展「パリへ渡った画家たち」
5/20, 6/3	解説「30分でわかる！学芸員の見どころ解説」
5/27	特別講演会「知られざる画家の素顔 思い出の作品たち」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
未定	未定

宗谷

情報なし

オホーツク

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
4/29～5/28	企画展「お細工物展（浜田智津子展）」（仮称）
5/3～5/5	イベント「GW 楽しい科学実験室」
5/3～5/5	プラネタリウム特別投影「GW わくわくプラネタリウム」
5/7, 14	ワークショップ「お細工物展ワークショップ」
6/4～6/11	美術企画展「令和4年度 美術館講座合同作品展」
6月下旬～8月上旬	講座「水彩画入門」
7/1	イベント「科学技術週間『宇宙パラシュートを作ろう！』」
7/15～8/27	美術企画展「世界一周トリックアートの旅（仮称）」
8/6	イベント「夏休み文化センターまつり」
8/6	プラネタリウム特別投影「夏休みわくわくプラネタリウム」

8/11, 12	プラネタリウム特別投影「星よりも、遠くへ」
9/17	イベント「コズミックカレッジ『宇宙飛行士体験と水ロケット作り』」
9月下旬～11月上旬	講座「絵画講座『やさしい美術』」

北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
4月中旬～9月中旬	今月のプラネタリウム上映
～4/23	写真展「オホーツク物語 4」～#キリトリセカイ～
5/1～5/31	星空・天体写真展（仮称）
6月上旬～7月上旬	全国流氷絵手紙交流展
7/16	第10回紋別わくわく科学教室
9月上旬～下旬	大館和広写真展（仮称）

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
3/15～10/22	特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」
4/21, 22	プチ工房「兜オリガミ」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/12, 13	プチ工房「ザリガニばさみ」
6/16, 17	プチ工房「風鈴」
6/24	講演会「児童文学翻訳家 長友恵子氏による講演会」
7/1～10/9	ロビー展「すごい標本！すごい資料！！」
7/1～8/31	体験会「昆虫グッズ無料レンタル」
7/15	体験会「写真教室」
7/22	体験会「ヘイケボタルを見てみよう」
7/28, 29	プチ工房「ロケット」
7/30	体験会「夏休み歴史教室！原始時代を体験しよう」
8/4, 5	プチ工房「ジェルキャンドル」
9/1, 2	プチ工房「型染めハガキ」
9/1～9/30	体験会「美幌博物館でお宝をさがせ！」
9/23	体験会「画家・渡辺貞之氏による体験会」
10/21	講演会「もっとポータブル魚道を使ってみよう」
10/22	体験会「もっとポータブル魚道を使ってみよう」
10/27, 28	プチ工房「ストローパイプ笛」

北見市ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
4月末～6月 (予定)	特別展「新指定重要文化財『常呂川河口遺跡墓坑出土品』展」
8/26	遺跡見学会

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
4/15～5/7	ロビー展「五月人形展」
4/22～5/7	企画展「令和の新着資料展」
4/22	博物館講座「昔の写真絵葉書からわかること」
5/20	友の会講演会「十勝川の治水百年史」
5/27	自然観察会「アイヌ語で自然かんさつ」
6/17	博物館講座「とちちで学ぶニワトリのはなし」
7/8～7/23	ロビー展「帯広まちなか映画館」
7/15	博物館講座「アイヌ民族と法」
7/23, 8月上旬	体験教室「つくってみよう縄文土器」
8/5～9/10	特別企画展「十勝縦断生物誌」
8/12	自然観察会「『十勝の自然』かんさつ会【北部編】」
8/26	自然観察会「『十勝の自然』かんさつ会【南部編】」
9/2	博物館講座「みんなでつくる自然マップ 北海道・札幌・十勝」
9/23	博物館講座「ぶらり帯広」
9/23	博物館講座「アイヌ口承文芸の整理と公開」

上士幌町ひがし大雪博物資料館 (ひがし大雪自然館) (01564-4-2323)

期間	タイトル
4月～10月	企画展「夏鳥展」
5月	自然館講座「糠平湖の植物化石」
5/14	自然観察会「野鳥編 in 糠平」
5/28	自然観察会「野鳥編 in 三股」
7月	自然観察会「昆虫編」
7/1	体験型事業「ルピナス染め体験」
7/22, 23, 29, 30, 8/5, 6	むしむし WEEK「むしむし講座（昆虫の観察と採集と標本づくり）」
7/22, 23, 29, 30, 8/5, 6	むしむし WEEK「ライトトラップ体験」
8月	親子自然観察会「親子昆虫観察会」
9月	自然館講座「糠平のきのこ」
9/30	三股再生事業「十勝三股の自然に触れる集い（植樹、三股の歴史と自然の観察会）」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
4/12～6/4	収蔵品展「2023年度コレクション展 I 『神田日勝 未完のキャンバス Part2』」
6/7～8/6	特別企画展「開館30周年記念展 I よみがえる全十勝美術展」
6/17	第29回 燕壘祭
8/11～10/28	企画展「開館30周年記念展 II 『神田日勝×岡田敦 幻の馬』」

8/11	講演会 『神田日勝×岡田敦 幻の馬』 オープニング・トーク
8/27	第31回 馬耕忌
年4回	ワークショップ「アート・キッズ・クラブ (小学生対象)」

忠類ナウマン象記念館 (01558-8-2201)

期間	タイトル
未定	講座「親子ミニ発掘体験教室」
未定	講座「アンモナイトのレプリカを作ろう」

釧路

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

期間	タイトル
6/3～7/2	巡回展「いのちってなに？」

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
～4/5	企画展「春休みイベント2023『つくるっておもしろい！折って切って紙工作』」
4/22	普及行事「星空キャラバン『宵の明星と春の大曲線』」
4/29～5/7	企画展「GW イベント2023」
7/22～8/17	企画展「夏休みイベント2023」
9/12～9/24	企画展「宇宙月間イベント」

釧路市立博物館 (0154-42-5809)

期間	タイトル
4/15, 16	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/16, 5/21, 6/18, 7/16, 8/20, 9/17	自然観察会「春採湖畔探鳥会」
4/22～6/25	企画展「北海道のオサムシ～松本堅一コレクション展～(仮)」
4/23, 5/27	講演会「オサムシ展関連講演会・模型講習会」
5/3～5/5	体験講座「博物館であそぼう」
GW中(日程未定)	体験講座「屋根ふき体験」
5/20, 6/17, 7/15, 8/19, 9/16	自然観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/28	自然観察会「初夏の探鳥会」
6/10, 7/8, 8/12, 9/9	自然観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫・汽水のいきもの観察会」
6/11, 8/27	歴史探訪会「まちなみ散歩」
7/1～7/17	企画展「台湾炭鉱博物館友好館協定締結記念展(仮)」
7/1～10/15	企画展「釧路湿原～ラムサール条約釧路会議30周年～(仮)」
9/23	自然観察会「ラムサール条約釧路会議30周年記念・霧多布湿原観察会」
9/24	講演会「ラムサール条約釧路会議30周年記念シンポジウム」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/22～6/18	ハコビ・コレクションのお宝 北海道立函館美術館コレクション名品選
4/22～6/18	開館 25 周年記念 奈良原一高 写真展 時空をこえた光
4/22～6/18	釧路芸術館のニュー・フェイス
4/29	アートシネマ館 (上映作品未定)
5/25, 6/1, 15	大人の家庭科&お気軽アート教室 ※テーマ別の3講座
5/27	アートシネマ館 (上映作品未定)
6/17	アートシネマ館 (上映作品未定)
7/1～9/3	ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち 開館 25 周年記念 モネ、ルノワール、セザンヌ、ピカソ、マティス… 笠間日動美術館コレクション
7/1～9/3	田園の夢 帯広美術館名品選 バルビゾン派の世界
7/22～8/17	夏のキッズ・アトリエ
7/29	アートシネマ館 (上映作品未定)
8/26	アートシネマ館 (上映作品未定)
9/16～11/12	開館 25 周年記念 あなたはイヌ派?それともネコ派? ディズニー キャッツ&ドッグス展
9/16～11/26	たのしいワン!かわいいニャン! かもめのももちゃんを見る Cats&Dogs
9/30	アートシネマ館 (上映作品未定)

根室

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

期間	タイトル
未定	未定

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2023 年度の北海道博物館大会について

第 61 回北海道博物館大会は、2023 年 7 月 13 日（木）と 7 月 14 日（金）に恵庭市で開催予定です。会員の皆様にお目にかかれまことを楽しみにしています。

■一年間臨時職員として事務局の仕事をしてくださっていた高野風音さんが、退職します。4 月からは札幌市内の会社に就職されます。この一年で知り合った各館園の皆様の元にも、是非足を運んでほしいと思います。訪れた際には、皆様暖かくお迎えいただけますと幸いです。お元気で！

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 132 号

発行日 2023 年 3 月 31 日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com